～専門作業療法士への道～

The Road to Specialized Occupational Therapist

一般社団法人日本作業療法士協会　生涯教育制度

専門作業療法士の認定取得のための手引き

各論

（　手外科　分野）

所属士会：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

会員番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

一般社団法人　日本作業療法士協会
教育部　生涯教育課

2026 年（令和 **8** 年）

目次

Ⅲ．専門作業療法士制度：各論（手外科）

専門作業療法士（手外科）の分野の定義

専門作業療法士（手外科）の取得要件 2

1．研修実践

2．臨床実践

3．研究実践

4．教育と社会貢献の実践

5．その他

専門作業療法士（手外科）の資格認定審査の申請の方法

1．専門作業療法士（手外科）の認定申請

2．申請書類作成上の注意事項

3．申請書類の記載方法

~~4．読み替え申請の方法~~

専門作業療法士資格認定審査（試験）の概要

専門作業療法士（手外科）の資格更新の概要

専門作業療法士（手外科）の有効期間延長の概要

Ⅳ．申請書類一式

Ⅲ．専門作業療法士制度：各論（手外科）

【専門作業療法士（手外科）の分野の定義】

疾病、外傷等による手の機能障害に対する高度な作業療法の臨床実践の分野。

【専門作業療法士（手外科）の取得要件 2】

専門作業療法士（**手外科**）の取得要件 2 は、以下の 1～5）です。2～5）の詳細は、表 2 参照を参照してください。

1）　認定作業療法士を取得していること（要件 1）

2）　研修実践として、専門単位合計 20 単位以上を取得し、さらに、筆記試験および面接試験（口述試験）に合格すること。

・指定学会・研修会等への参加（10 単位以上）

対象は、国際および全国学会（日本作業療法学会、日本ハンドセラピィ学会、日本手外科学会）は 2 単位、地方研究会および研修会は 1 単位とします。

※日本手外科学会主催秋期教育研修会（2 単位）は必須とし、専門基礎の修了者のみ単位を授与します。

・手外科専門基礎研修および専門応用研修の修了（10 単位）

3）　臨床実践として、専門単位合計 20 単位以上を修得していること。

・必要な事例数の経験（8 単位）

・一定の時間数以上の勤務経験（8 単位）

・指定研修施設における臨床研修（4 単位）

4）　研究実践として、専門単位合計 10 単位以上を修得していること。

・論文および著書として 4 単位以上

対象は、手外科に関する著名外国雑誌は 4 単位、学術誌作業療法、日本ハンドセラピィ学会誌、日本手外科学会誌は 3 単位。その他全国レベル学会誌が 2 単位、地方誌は 1 単位。著書は、単著・編著が 3 単位、共著は 1 単位。

※論文：共著の場合は 0.5 倍計算とします。

・学会発表として 4 単位以上

対象は、国際学会（作業療法学会、ハンドセラピィ学会、手外科学会等）は 1 題 4 単位、全国学会（日本作業療法学会、日本ハンドセラピィ学会、日本手外科学会）は 1 題 3 単位、その他の全国学会は 1 題 2 単位、地方会は 1 題 1 単位。

※日本ハンドセラピィ学会、日本手外科学会のいずれかにおける発表が必ず 1 題以上あること。

※共同演者の場合は 0.5 倍計算とします。

・事例報告として 2 事例を報告（2 単位）

専門作業療法士（手外科）では、認定申請のために手外科作業療法事例 2 事例を報告するする必要があります。方法として日本作業療法士協会学術部の事

例報告登録制度は終了しましたが、これまでに登録している事例報告は使用可能です。または学術誌「作業療法」および手外科分野が定める学術誌において手外科関連の事例報告を行います（査読付き）。あるいわ日本作業療法学会および手外科分野が定める学会において事例報告（査読付き）を行います。但し、取得要件 2 の学会発表の項目で単位を認めた同じ発表を、重複して事例報告に使用することはできません（どちらか 1 回のみの使用となります）。3 つの方法を併用しても構いません。なお、認定作業療法士取得時の事例が手外科に関する事例であれば、それを含めることができます。

5）　教育と社会貢献の実践として、専門単位合計 10 単位以上を修得していること

・教育の実践（5 単位以上）

対象は、日本作業療法士協会、日本ハンドセラピィ学会、日本手外科学会主催は 3 単位、県士会主催は 2 単位。その他日本ハンドセラピィ学会、日本手外科学会のいずれかが認める他団体の主催は 2 単位とします。

・社会貢献の実践（5 単位以上）

対象は、学会長および研究会長は全国 5 単位、地方 3 単位、座長および司会は全国 3 単位、地方 2 単位。その他、専門分野の委員会活動は、委員長 2 単位、委員 1 単位。

取得要件 1 の認定作業療法士および上記 2)～5)の取得要件 2 を満たすことで、専門作業療法士資格認定審査（試験）の申請を行う事ができます。

表 2　専門作業療法士（手外科）の取得要件

専門作業療法士（手外科）要件の具体的内容				要件の基準単位数	
研修実践	指定学会・研修会等への参加	国際学会または国際学会主催の研修会	2	10	計 20 以上
		全国学会または全国学会主催の研修会	2		
		都道府県士会主催の学会・研修会	1		
	研修修了	専門基礎研修修了	5	10	
		専門応用研修修了	5		
	試験	筆記試験および面接試験（口頭試問）		合格	

臨床実践	事例数	専門分野において必要な事例数の経験	専門応用研修カリキュラム受講前の直近 5 年間に経験した 10 事例の報告	4	8	計 20 以上
			筆記試験および面接試験（口頭試問）前の直近 5 年間に経験した 10 事例の報告	4		
	勤務経験	専門分野における一定の時間数以上の勤務経験	5 年以上の臨床経験（手外科領域）	4	12	
			10 年以上の臨床経験（手外科領域）	4		
	臨床研修		指定研修施設における臨床研修	4		

研究実践	論文・著書 *すべて、ISSN、ISBN を取得している専門分野に関する書物であること	論文	国際雑誌	4	共著の場合、専門単位を 0.5 倍とする	4 以上	8 以上	計 10 以上
			学術誌作業療法、日手会誌、ハンド学会誌、理学療法学	3				
			上記以外の全国学会・研修会誌	2				
			都道府県士会などが発行する学会誌など	1				
		著書	単著・編著	3				
			共著	1				
	学会発表 **	指定学会での発表	国際学会（WFOT、IFSSH、IFSHT、APFSSH、APFSHT）	4	共同著者の場合、専門単位を 0.5 倍とする	4 以上		
			全国学会（日本作業療法学会、日手会、ハンド学会、理学療法学会）	3				
			上記以外の全国学会	2				
			都道府県士会などが主催する学会	1				
	事例報告 ** 査読付き 2 事例報告	事例報告	日本作業療法協会の事例登録制度は終了しましたが、これまでに登録している事例は使用可能 事例数は認定作業療法士取得時に提出している場合は、その事例を含むことが可能	1	2			
		学術誌・学会事例報告	学術誌「作業療法」および上記の学術誌の実践報告（手外科関連で事例報告の内容）において事例報告、または学会での事例報告を発表	1				

教育と社会貢献の実践	教育の実践 **	講師・シンポジスト	協会主催研修会	3	5 以上	計 10 以上
			都道府県士会主催研修会	2		
			ハンドセラピィ学会主催研修会	3		
			その他（他団体の研修会講師、大学での特別講演など）	2		
			臨床研修指導（1 ヶ月につき）	2		
			症例報告指導（1 症例につき）	2		
	社会貢献 **	査読	論文 1 件（1 論文につき 1 単位）	1	5 以上	
			学会抄録（1 学会につき 1 単位）	1		
		学会と運	（主催学会長、全国レベルの学会・研究会	5		

		営	研修会長など）	都道府県士会主催の学会・研究会など	3		
			依頼（座長、司会など）	全国レベルの学会・研究会	3		
				都道府県レベルの学会・研修会など	2		
		専門分野の委員会等の活動	委員長	国際・全国学会及び研修会	3		
				地方学会及び研修会	2		
			委員	国際・全国学会及び研修会	2		
				地方学会および研修会	1		

**すべての専門分野に関する事例であること

1. 研修実践研修カリキュラム修了により専門単位 10 単位を取得）

1) 指定学会・研修会等への参加

2) 専門基礎研修カリキュラム（手外科）

（1） カリキュラム内容：専門作業療法士（手外科）の専門基礎研修は、基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで構成されています。各研修の目的、専門単位数、時間数（コマ数）、内容を表 3 に示します。

表 3　専門作業療法士（手外科）　専門基礎研修カリキュラム

大項目	受講資格	研修の目的	単位	時間数(コマ数)	研修項目
＜基礎Ⅰ＞機能解剖･運動学	1 年目～	解剖・知覚，運動機能の知識習得	10	10	手関節・手の機能解剖概説
					肘・前腕の機能解剖概説
					手関節・手の機能解剖・触診
					肩・肘・前腕の機能解剖・触診
＜基礎Ⅱ＞基礎医学		関連医学知識の習得		6	生理学（運動・知覚）
					病態生理学（末梢神経麻痺による筋収縮および知覚異常，反射異常）
					生体力学（関節モーメント，腱の滑走距離等）
					病態運動学（骨関節アライメント異常，手の変形）
					画像診断学
					創・感染・治癒
＜基礎Ⅲ＞臨床基礎		臨床基礎知識の習得		6	ハンドセラピィ概論
					基礎用語
					骨折概論
					腱損傷概論
					末梢神経損傷概論
					拘縮概論
					炎症性疾患概論
＜基礎Ⅳ＞評価		評価に関わる基礎知識の習得		8	評価概論
					観察・触診
					ROM
					筋力
					感覚
					上肢機能
					ADL
					症例プレゼンテーション
				30	

（2） **受講方法：**上記、専門基礎研修カリキュラム（表 3）をもとに開催される基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを受講します。原則として基礎Ⅰ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅱの順で受講します。(但し、基礎Ⅱは都合上、後で述べる専門応用研修と合わせて開講)。

研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、ハンドセラピィ学会のホームページにて広報されます。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。

（3） **受講記録：**ハンドセラピィ学会が主催する研修会を受講すると修了証が発行されます。大切に保管してください。なお、会員ポータルサイトでの手続きは必要ありません。

3)専門応用研修カリキュラム（手外科）

（1） **受講資格：**専門応用研修の受講資格は、原則として、次の進級要件を満たしていることとする。

① 専門基礎研修カリキュラムの基礎Ⅰ・Ⅲ・Ⅳを修了していること

② 最近 5 年の勤務において経験した手外科 10 事例の報告を行っていること

③ 受講資格証明書（様式：専 OT-6-1）を含む必要書類を揃え作業療法士協会へ申請していること

必要書類一覧

・受講資格証明書（様式：専 OT-6-1）

・研修実践に関する報告書（様式：専 OT-2-1）

・臨床実践に関する報告書（様式：専 OT-3-1～3）

＊申請書類等を協会事務局まで郵送して下さい（総論：12. 申請書類の送付先・問合せ先を参照）。

ただし当面の間、ハンドセラピィ学会に応用実践研修の受講資格申請を行っている場合は日本作業療法士協会への③の申請を免除する。

カリキュラム内容：専門応用研修カリキュラムの各研修の目的、専門単位数、時間数（コマ数）、内容を表 4 に示します。

表 4　専門作業療法士（手外科）　専門応用研修カリキュラム

大項目	受講資格	研修の目的	単位	時間数（コマ数）	研修項目	
応用実践	6 年目～	基礎知識をふまえた応用技術の習得を目的とし、高い実践能力を身につける。	10	6	手の腱損傷	生体力学
					手の拘縮	創・感染、治癒
				6	上肢の末梢神経損傷	病理生理学
					上肢の機能再建	生理学
				6	手の骨折	画像診断学
					炎症性疾患の手	病態運動学
				6	上腕・肘・前腕の損傷	物理療法Ⅰ
					先天異常・切断・熱傷の手	物理療法Ⅱ
				2	物理療法Ⅰ	
					物理療法Ⅱ	
				8	ハンドスプリントⅠ	
					ハンドスプリントⅡ	
				34		

（2） **受講方法：**上記、研修カリキュラム（表 4）をもとに開催される専門応用研修を受講します。研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、ハンドセラピィ学会ホームページにて広報されます。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。

（3） **受講記録：**専門基礎研修の受講と同様に記録をしてください。

（4） 専門応用研修の修了：応用研修カリキュラムをすべて受講することにより、専門応用研修の修了とします。

4)専門研究・開発カリキュラム（手外科）

（1） **受講資格**： 研究・開発の受講については、表 5 の方法から選択し、順次進めてください。

（2） **カリキュラム内容：**専門研究・開発のカリキュラムの目的、研修項目、実施形態を表 5 に示します。

表 5 専門作業療法士（手外科）: 専門研究・開発カリキュラム

	目的	研修項目	実施形態
専門研究・開発	高度かつ専門的な実践能力に基づき手外科と関わる作業療法に関する研究が実施でき、指導法、評価法、効果判定などの開発ができる。	研究方法論（共通研修）	① 協会が指定する専門研究・開発 e-Learning で研究倫理や研究方法を学習し、研究・開発をすすめ、手外科に関する論文を作成する。
		専門分野の指導を受け、研究開発を進める	②大学院にて博士、修士を取得（原則として手外科に関する論文作成）

（3） **受講方法：**表 5 の研修項目に掲載された課題を遂行します。表 5 の実施形態のうち以下の 2 種のいずれかを遂行してください。

①協会が指定する専門研究・開発 e-Learning「ICR-web*」を受講し、より発展した研究・開発を実践していきます。受講方法の詳細は日本作業療法士協会ホームページから「専門研究開発 e ラーニング（ICRweb）マニュアル」をダウンロードし、確認してください。受講証明として ICR-web が発行する 1 枚の修了証（有料）が必要となります。

———*ICR-web：https://www.icrweb.jp/icr_index.php

②大学院において博士、修士の学位を取得することによって専門研究・開発の研修を修了したものとみなします。原則として手外科関連論文を作成します。

（4） **受講記録：**受講方法①については受講証明として ICR-web が発行する 2 枚の修了証（有料）が必要となります。印刷し保管してください。受講方法②については学位記の写しと原則として手外科に関する学位論文によって審査を行いますので、これらの必要書類を大切に保管してください。必要書類は、専門作業療法士資格認定審査申請時に研修実践の報告書に添えて提出する必要があります。

5)筆記試験および面接試験（口述試問）

受験資格：筆記試験および面接試験（口述試問）の受験資格は、以下の 9 つの要件を満たしていることです（表 6 参照）。これらの受験資格を満たすための研修会等は

なく、各自が受験資格を満たすための実践を積み上げていきます。

① 基礎研修，応用実践研修終了
② 申請時直近 5 年間の経験事例数報告
③ 指定学会・研修会等への参加
④ 事例報告（手外科事例 2 編）
⑤ 関連学会や研修会における発表（手外科領域に限る）
⑥ 関連学会誌や書籍における論文・著書（手外科領域に限る）
⑦ 講師・シンポジスト等の専門分野に関する教育（手外科領域に限る）
⑧ 学会長・座長・査読・委員会等活動（手外科領域に限る）
⑨ 指定研修施設における臨床研修修了

表 6 専門作業療法士（手外科）筆記試験および面接試験（口述試問）の受験資格

専門作業療法士（手外科）筆記試験および面接試験（口頭試問）の受験資格	
① 専門基礎研修，専門応用研修終了	
② 申請時直近 5 年間の経験事例数報告	
※③指定学会・研修会等への参加	研修実践要件（10 単位） 内訳：国際および全国学会（作業療法学会、ハンドセラピィ学会、手の外科学会）は 2 単位，地方研究会および研修会は 1 単位 ※日本手の外科学会主催秋期（春期）教育研修会（2 単位）は必須とし、応用実践研修受講者のみが受講できる
④ 事例報告（手外科事例 2 編）	研究実践要件（2 単位）
⑤ 関連学会や研修会における発表（手外科領域に限る）	研究実践要件（4 単位以上） 内訳：国際学会（作業療法学会、ハンドセラピィ学会、手の外科学会等）は 1 題 4 単位、全国学会（日本作業療法学会、日本ハンドセラピィ学会、日本手の外科学会）は 1 題 3 単位、その他の全国学会は 1 題 2 単位、地方会は 1 題 1 単位。 ※日本ハンドセラピィ学会、日本手の外科学会のいずれかにおける発表が 1 題以上あること ※共同演者の場合は 0.5 倍計算
⑥ 関連学会誌や書籍における論文・著書（手外科領域に限る）	研究実践要件（4 単位以上） 内訳：ハンドセラピィおよび手の外科に関する著名外国雑誌は 4 単位、機関誌作業療法、日本ハンドセラピィ学会誌、日本手の外科学会誌は 3 単位、その他全国レベルの学会誌が 2 単位、地方誌は 1 単位、著書は単著が 3 単位、共著は 1 単位 ※共著の場合は 0.5 倍計算
⑦ 講師・シンポジスト等の専門分野に関する教育（手外科領域に限る）	教育と社会貢献の実践要件（5 単位以上） 内訳：日本作業療法士協会、日本ハンドセラピィ学会、日本手の外科学会主催は 3 単位、県士会主催は 2 単位、その他の団体主催は 2 単位
⑧ 学会長・座長・査読・委員会等活動（手外科領域に限る）	教育と社会貢献の実践要件（5 単位以上） 内訳：学会長および研究会長は、全国 5 単位、地方 3 単位、座長および司会は、全国 3 単位、地方 2 単位、その他の専門分野の委員会活動は、委員長 2 単位、委員 1 単位
⑨ 指定研修施設における臨床研修終了	臨床実践要件（4 単位）

重要

＊上記の 9 つの受験資格は、先に紹介した専門作業療法士（手外科）の取得要件の内容と重複しています。これは、この受験資格を満たすことができれば、取得要件である「臨

床実践」「研究実践」「教育と社会貢献の実践」を満たすことを意味します（表 2 参照）。つまり、受験資格を満たすことができれば、自然と取得要件の 3 実践を満たすことができる仕組みとなっています。そして、受験資格を得て、筆記試験および面接試験（口述試問）に合格すると、取得要件の「研修実践」を満たすこととなり、取得要件の 4 実践すべてが満たされ、専門作業療法士（手外科）の申請を行うことができます。

2. 臨床実践（専門単位 20 単位以上を修得）

1) 事例数（専門単位 8 単位を修得）

（1） **専門分野における必要な事例数の経験：**専門作業療法士（手外科）では、20 例以上の事例経験を必要とします。次の表 7 に挙げられている多種の疾患の診療経験を有することが望ましいと考えています（表 7 参照）。

（2） **受講記録：**経験した事例は申請書類**様式：専 OT-3-1「臨床実践に関する報告書」**を参考にし各自で記録を残しておくようにしてください。

2) 勤務経験（専門単位 8 単位を修得）

（1） **専門分野における一定時間以上の勤務経験:**専門作業療法士（手外科）では、原則として、10 年以上の勤務経験を必要とします。施設の証明証を提出していただきます。

（2） **受講記録:**勤務経験は申請書類**様式:専 OT-3-1「臨床実践に関する報告書」および「勤務証明書」「非常勤勤務証明書」**を参考にし各自で記録・証明書等を残しておくようにしてください。

（3） **非常勤勤務の取り扱い:**非常勤勤務の場合は、年間通算 400 時間以上の勤務実績を 1 年の経験として換算する。複数の施設がある場合には、合算も可能です。ただし、1 年間で 800 時間を超しても 2 年とは換算しません。

3) 臨床研修（専門単位 4 単位を修得）

（1） **臨床研修内容:**専門基礎研修カリキュラムと専門応用研修カリキュラムを修了した後に臨床研修を行います。176 時間の研修を行い、1 症例の報告を行います。臨床研修の詳細な手続きに関しては、ハンドセラピィ学会のホームページにて確認してください。

（2） **研修証明証：**臨床実習での報告書を作成し、提出していただきます。

表 7　事例疾患一覧表

1　骨、関節損傷（靭帯損傷を含む）

・指節骨部、IP・MP 関節部

・中手骨部、CM 関節部

・手根骨・橈骨遠位端部、手関節部

・前腕骨骨幹部

・上腕骨遠位・前腕骨近位部、肘関節部

・上腕骨骨幹部

・上腕骨近位部、肩関節部

2　腱損傷

①　屈筋腱損傷

・腱縫合

・腱移行

・腱移植

・腱剥離

②　伸筋腱損傷

・腱縫合

・腱移行

・腱移植

・腱剥離

3　末梢神経損傷

①　腕神経叢損傷

・外傷性

・分娩麻痺

②　神経損傷

・正中神経

・尺骨神経

・橈骨神経

・その他（　　）

③　絞扼性神経障害

・正中神経

・尺骨神経

・橈骨神経

・その他（　　）

④　複合性局所疼痛症候群

4　麻痺手の再建

・Tetraplegic hand

・正中神経麻痺

・尺骨神経麻痺

・橈骨神経麻痺

・混合神経麻痺（腕神経叢麻痺を含む）

5　複合組織損傷（切断を含む）

6　変形性関節症

・Heberden 結節

・Bouchard 結節

・母指 CM 関節症

・変形性肘関節症

7　関節リウマチ

8　蓄積外傷障害

9　手関節疾患

・Kienbock 病

・Preiser 病

・遠位橈尺関節障害

・TFCC 損傷

・尺骨突き上げ症候群

・手根不安定症

10　先天異常

11　循環障害

12　特殊な外傷

・高圧注入損傷

・熱傷

・熱圧挫傷

・電撃傷

・化学損傷

・咬傷

・剥脱損傷

13　拘縮

・皮膚性拘縮

・筋・腱性拘縮

・関節性拘縮

・Dupuytren 拘縮

・阻血性拘縮

14　炎症性疾患等、その他の疾患

3．研究実践

1) 論文・著書（専門単位 4 単位以上を修得）

（1） **論文・著書:** 専門作業療法士（手外科）では、手外科に関する著名外国雑誌、機関誌作業療法、日本ハンドセラピィ学会誌、日本手外科学会誌への論文掲載が必要となります。また、ハンドセラピィおよび手外科に関する著書も対象となります。必要となる専門単位数は、掲載された雑誌、筆頭かどうか、単著・編著か共著か、によって異なります。表 2 の取得要件を確認してください。

（2） **受講記録：**研究実践の記録は申請書類**様式：専 OT-4-1「研究実践に関する報告書」**を参考にし各自で記録・論文等のコピーを残しておくようにしてください。

2) 学会発表（専門単位 4 単位以上を修得）

（1） **学会発表：**手外科分野に関する学会発表を行います。論文・著書と同様に、表 2 を確認してください。

（2） **受講記録：**研究実践の記録は申請書類**様式：専 OT-4-1「研究実践に関する報告書」**を参考にし各自で記録・抄録等のコピーを残しておくようにしてください。基礎研修ポイントが発生するもので、協会および都道府県士会主催の学会においては会員ポータルサイトに自動的に反映されますが、他団体・SIG 等が主催した学会等は各自で手続きが必要です。詳細は協会ホームページにある生涯教育制度の概要の「他団体・SIG 等のポイント申請」を確認してください。

3) 事例報告（専門単位 2 単位を修得）

（1） 事例報告　査読付き 2 事例（専門単位 2 単位を取得）

専門作業療法士（手外科）では、認定申請のために手外科作業療法事例 2 事例を報告するする必要があります。方法として日本作業療法士協会学術部の事例報告登録制度は終了しましたが、これまでに登録している事例報告は使用可能です。または学術誌「作業療法」および手外科分野が定める学術誌において手外科関連の事例報告を行います（査読付き）。あるいは日本作業療法学会および手外科分野が定める学会において事例報告（査読付き）を行います。但し、取得要件 2 の学会発表の項目で単位を認めた同じ発表を、重複して事例報告に使用することはできません（どちらか 1 回のみの使用となります）。3 つの方法を併用しても構いません。なお、認定作業療法士取得時の事例が手外科に関する事例であれば、それを含めることができます。

（2） **受講記録:**協会の事例登録制度に登録する場合は会員ポータルサイトの事例登録のページから登録を行ってください。学術誌「作業療法」等学術誌の実践報告において、あるいは日本作業療法学会および手外科分野が定める学会において事例報告を行った場合は各自で記録、掲載された事例報告や抄録の

コピーを残しておくようにしてください。

4．教育と社会貢献の実践

1) 教育の実践（専門単位 5 単位以上を修得）

（1） **教育の実践：**専門作業療法士（手外科）では、研修会等での講師、シンポジスト、臨床研修指導などを経験し、専門単位を取得していきます。専門単位数は、研修会の種別により表 2 に定められています。

（2） **受講記録：**申請書類**様式：専 OT-5-1「教育と社会貢献の実践に関する報告書」**を参考にし各自で記録・証明書等を残しておくようにしてください。

2) 社会貢献の実践（専門単位 5 単位以上を取得）

（1） **教育の実践：**専門作業療法士（手外科）では、雑誌等の査読、学会・研修会の運営、自治体事業やボランティア活動への参画などを経験し、専門単位を取得していきます。専門単位数は、学会・研究会の種別により表 2 に定められています。

（2） **受講記録：**申請書類**様式：専 OT-5-1「教育と社会貢献の実践に関する報告書」**を参考にし各自で記録・証明書等を残しておくようにしてください。

5．その他（取得要件の読み替え）

読み替え申請は終了しました。

【専門作業療法士（手外科）の資格認定審査（試験）申請の方法】

1．専門作業療法士（手外科）の資格認定審査（試験）申請

専門作業療法士（手外科）の取得要件１，２を満たした後、資格認定審査（試験）申請を行います。下記 1）～2）の申請書類等を協会事務局まで郵送して下さい（総論：12．申請書類の送付先・問合せ先を参照）。

1）専門作業療法士資格認定審査　共通申請書類

（1）専門作業療法士資格認定審査　申請書類確認用紙　・・・・・　様式：専 OT-1-1
（2）専門作業療法士資格認定審査（試験）申請書　・・・・・　様式：専 OT-1-2
（3）作業療法士免許証の写し
（4）認定作業療法士認定証の写し
（5）日本作業療法士協会の該当年度会員証の写し
（6）専門作業療法士研修　受講履歴の写し
（7）都道府県士会の会員歴証明書
（8）資格認定審査料の振込みを証明する書類等の写し

2）専門作業療法士資格認定審査　分野別申請書類

（1）研修実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-2-1
　　上記報告書に添付する証明書類等（該当する場合）
（2）臨床実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-3-1
　　勤務証明書　・・・・・　様式：専 OT-3-2
　　非常勤勤務証明書　・・・・・　様式：専 OT-3-3
（3）研究実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-4-1
　　論文、著書、抄録の写し
（4）事例報告 2 事例の写し
（5）教育と社会貢献の実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-5-1
　　証明する書類等

2．申請書類作成上の注意事項

申請書類を作成するにあたり、巻末の申請書類一式をコピー、あるいは協会ホームページ（http://www.jaot.or.jp/）からダウンロードして下さい。

1）申請書類は、楷書またはパソコンでわかりやすく、もれなく記載する。用紙が足りない場合には、コピーして使用するか、所定の様式に従って追加分を作成ください。ダウンロードした書類の書式は必要以上に変更しないでください。書類に不備があった場合には受理されませんので、ご注意ください。
2）年月日は、西暦で統一して下さい。
3）申請書類は、できるだけ A4 サイズに統一して下さい。
4）訂正がある場合には、訂正個所に二重線をひき訂正印を押してください。修正液

や修正テープは使用しないでください。

5）書類に不備があり、返却される場合以外、申請された書類は返却されません。

3．申請書類の記載方法

1）共通申請書類

（1）申請書類確認用紙（様式：専 OT-1-1）

・申請時の確認と事務局受付時の確認に使用します

・連絡先は必ず記載して下さい

・申請する書類の枚数を記入し、必ず確認をしてください

（2）専門作業療法士資格認定審査（試験）申請書

・太枠内に必要事項を記入する

・写真を貼付する

（3）作業療法士免許証の写し

・A4 サイズに縮小コピーし提出する

・改姓し、免許証と性が異なる場合には、改姓を証明できるものの写し（運転免許証、健康保険証のコピー等）を添付する

（4）認定作業療法士認定証の写し

・有効期限が切れていないかを確認してください

（5）日本作業療法士協会の該当年度会員証の写し

・会費を納入したが、会員証が手元に届いていない場合は、振込用紙の受領証の写しを同封して下さい

（6）専門作業療法士研修　受講記録の写し

・ハンドセラピィ学会主催研修会の修了証のコピーを添付してください

（7）都道府県士会の会員歴証明書

・所属する都道府県士会から会員歴証明書を発行してもらう

・会員歴証明書の書式は、認定作業療法士新規・更新申請に使用するものと同様とする（認定作業療法士の申請および更新に関する手続き等解説書）。

（8）資格認定審査料の振込みを証明する書類等の写し

・資格認定審査料を指定の口座に振り込んで下さい（p. 20 参照）。

・振込を証明する書類等の写し（A4 用紙）を同封して下さい。

2）専門作業療法士資格認定審査　分野別申請書類

（1）研修実践に関する報告書（様式：専 OT-2-1）、ならびに報告書に添付する証明書類等（該当する場合）

・研修カリキュラムの受講状況をハンドセラピィ学会主催研修会の修了証から転記して下さい。

・その他の研修実践では、学会、研修会への参加状況を記載します。生涯教育受講記録を参照し、該当するものを転記して下さい。

（2）臨床実践に関する報告書（様式：専 OT-3-1）

・勤務証明書（様式：専 OT-3-2）および必要に応じて非常勤勤務証明書（様式：

専 OT-3-3）を用いて所属施設の証明を受ける。

・勤務証明書から合計経験年数を算出し、10 年以上であれば 8 単位に該当します。その旨、記載して下さい。

・経験事例数は、様式：専 OT-2-1 を用いて該当事例にチェックし、事例数を記入する。20 例以上で 8 単位に該当します。

・臨床研修を実践した施設および指導者名、期間を記載する。臨床研修で作成した報告書を必ず添付して下さい。

（3）研究実践に関する報告書（様式：専 OT-4-1）、ならびに添付する論文、著書、抄録の写し

・専門分野に関する論文、著書、抄録であること。

・論文、著書は、掲載雑誌、単著か共著かなどにより、専門単位数が異なります。表 2 の取得要件を参照して、専門単位数を算出して下さい。論文・著書、学会発表、それぞれに関して専門単位数を算出して下さい。

・論文の写しは、別刷り、あるいはコピーを用意する。ISSN を確認できる頁も必ず加えて下さい。

・著書は、必ずしも全頁をコピーする必要はありません。ISBN の確認、執筆内容が専門分野に該当するか、単著か共著かが確認できるものを添付して下さい。

・学会抄録は、学会名、開催日時等の情報もあわせて用意して下さい。

（4）事例報告 2 事例の写し

・日本作業療法士協会学術部の「事例報告登録制度」を利用した場合，

①公開中事例が専門分野に該当することを確認します。

②協会ホームページの事例登録システムの登録事例一覧を印刷し、添付して下さい。

・分野で指定された学術誌・学会に事例報告を発表した場合

①掲載された学術誌が専門分野が指定した雑誌に該当すること、事例が専門分野に該当することを確認します。

②掲載された事例報告の別刷りあるいはコピーを添付してください（学術誌名、掲載号数などが確認できるようにコピーしてください）。

③学会で事例報告を発表した場合、学会が専門分野が指定した学会に該当することを確認します。

④学会発表した事例報告の抄録のコピーを添付してください（学会名，発表年を記載してください）。

（5）教育と社会貢献の実践に関する報告書（様式：専 OT-5-1）、および証明する書類等

・専門分野に関する教育と社会貢献であること。

・教育と社会貢献にはさまざまなものが含まれ、それぞれ専門単位数が異なります。表 2 の取得要件を参照して、該当するものを報告書に記入して下さい。内容に関しては、簡潔で結構です。専門分野の内容であることが確認で

きるよう配慮下さい。

・教育と社会貢献ともに専門単位数を算出して下さい。さらに、合計専門単位数を算出して下さい。教育で 5 単位以上、社会貢献で 5 単位以上、合計 10 単位以上が必要です。

・証明書類に関しては、依頼状や委嘱状、公文書、または参画を証明できるもの等を必ず添付して下さい。

4．読み替えの申請方法

読み替え期間は終了しました。

【専門作業療法士資格認定審査の試験実施の概要】

日本作業療法士協会は、毎年 1 回、専門作業療法士資格認定審査（試験）を実施する。審査に合格した者を専門作業療法士として認定する。資格認定の有効期限は 5 年間とする。

1. 試験の目的

専門作業療法士を取得するための 4 つの実践を総合的に確認することを目的とする。

2. 申請要件

1) 認定作業療法士を有すること

2) 各専門分野における専門作業療法士取得のための 4 実践を満たしていること

（1） 研修実践：合計 20 専門単位

（2） 臨床実践：合計 20 専門単位

（3） 研究実践：合計 10 専門単位

（4） 教育と社会貢献の実践：合計 10 専門単位

3. 審査料

審査料は、5,000 円とする。（振込手数料は申請者が負担）。

既納の審査料は、いかなる理由があっても返還しない。

振込先 ： 郵便振替口座　00120-7-146118　生涯教育講座

4. 申請方法

次の書類を準備し、協会事務局へ書留等の記録が残る方法で送付する。封書には「専門作業療法士資格認定審査申請」と朱書きする。

1) 申請書類

専門作業療法士資格認定審査申請書に必要事項を記入し、資格認定審査料の振込を証明する書類等の写しを貼付する。

2) 必要添付書類

①作業療法士免許証の写し

②当該年度の会員証の写し

③認定作業療法士認定証の写し

④会員ポータルサイトの写し

⑤専門作業療法士研修　受講記録の写し

⑥所属士会の会員歴証明書

⑦分野別申請書類

・研修実践に関する報告書

・臨床実践に関する報告書

・研究実践に関する報告書

・事例報告 2 事例の写し
・教育と社会貢献の実践に関する報告書
⑧資格認定審査料の振込みを証明する書類等の写し

5. 審査方法

1) 書類審査

申請された書類一式を審査し、受験資格を確認する。受験資格を満たすものに受験票を発行する。

2) 筆記試験（四肢択一）120 分

出題方式	出題数	配点	出題範囲
一般問題（専門基礎）	30 問	60 点	専門基礎研修カリキュラムに該当する範囲
状況設定問題（専門応用）	20 問	40 点	専門応用研修カリキュラムに該当する範囲
計	50 問	100 点	

※合格基準は、60%以上の得点とする。

6. 採点と合否判定等

試験実施後、採点し、60%以上の得点を得たものを合格とする。合格者には専門作業療法士の認定証が交付される。

7. 再試験

不合格の場合は、次年度あらためて受験する。

※各年度における資格認定審査の具体的内容については、年度毎に広報される内容を確認する。

【専門作業療法士（手外科）の資格更新の概要】（追加ページ）

専門作業療法士の更新は専門作業療法士取得後 5 年間で以下の要件を満たすことによって更新することができます。

①生涯教育基礎研修ポイント 25 ポイント以上
②専門作業療法士新規取得要件（各分野）の研究実践と教育と社会貢献の実践が各々 4 専門単位以上であり、あわせて 15 専門単位以上あること
＊但し、複数分野の申請を行う場合、基礎研修ポイント及び研究実践や教育と社会貢献の実践を重複して使用することはできません。それぞれの専門分野で基礎研修ポイント 25 ポイント以上、研究実践や教育と社会貢献の実践 15 専門単位以上必要となります。

専門作業療法士の更新によって、認定作業療法士の更新を同時に行うことが可能です。

1．専門作業療法士（手外科）の更新申請の方法

専門作業療法士資格更新審査申請に必要な書類を整え、協会事務局に提出します。封書には「専門作業療法士資格更新審査申請」と朱書きしてください。

1）専門作業療法士資格更新審査　共通申請書類
（1）専門作業療法士資格更新審査申請書及び申請書類確認用紙
・・・・・　様式：専 OT-7-1
（2）専門作業療法士認定証の写し
（3）日本作業療法士協会の該当年度会員証の写し
（4）会員ポータルサイト基礎ポイント研修受講履歴
（5）都道府県士会の会員歴証明書
（6）更新審査料の振込を証明する書類等の写し
2）専門作業療法士資格更新審査　分野別申請書類
（1）研究実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-4-1
論文、著書、抄録の写し
（2）教育と社会貢献の実践に関する報告書　・・・・・　様式：専 OT-5-1
証明する書類等

＊申請書類作成上の注意及び申請書類の記載方法については、【専門作業療法士の資格認定審査（試験）申請の方法】を参照してください。

2．専門作業療法士資格更新審査料

審査料は、5,000 円とする（振込手数料は申請者が負担）。既納の審査料は、いかなる理由があっても返還しない。

振込先：　郵便振替口座　00120-7-146118　生涯教育講座

【専門作業療法士　有効期間延長について】（追加ページ、2023 年度より開始）

2023 年度の専門作業療法士制度改訂により、留学、海外勤務、出産休暇、育児休暇、介護休暇、長期病気療養等の理由で専門作業療法士としての活動を継続することができない場合に限り、申請することによって専門作業療法士の有効期間を延長することができるようになりました。詳細・手続きについては、「専門作業療法士への道　総論　2023 年度（令和 5 年度）」をご確認ください。

Ⅳ．申請書類一式

1） 専門作業療法士資格認定審査　申請書類確認用紙‥‥‥ **様式：専 OT-1-1**
2） 専門作業療法士資格認定審査（試験）申請書　‥‥‥ **様式：専 OT-1-2**
3） 研修実践に関する報告書　‥‥‥ **様式：専 OT-2-1**
4） 臨床実践に関する報告書　‥‥‥ **様式：専 OT-3-1**
5） 勤務証明書　‥‥‥ **様式：専 OT-3-2**
6） 非常勤勤務証明書　‥‥‥ **様式：専 OT-3-3**
7） 研究実践に関する報告書　‥‥‥ **様式：専 OT-4-1**
8） 教育と社会貢献の実践に関する報告書　‥‥‥ **様式：専 OT-5-1**
9） 受講資格証明書（専門応用研修および専門研究・開発受講申請用）
‥‥‥ **様式：専 OT-6-1**
10） 専門作業療法士資格更新審査申請書及び申請書類確認用紙
‥‥‥ **様式：専 OT-7-1**

様式：専 OT-1-1

年　　月　　日

専門作業療法士（手外科）資格認定審査　申請書類確認用紙

郵送する前に、全ての書類が正しく記入されているかをご確認ください。
書類に不備があった場合には、認定審査を受けることができなくなります。

会員番号：　　申請者氏名：

緊急連絡先（TEL）：

※ 書類等について連絡する場合がありますのでご記入ください。

書　類　名	枚数（本人記入）	確認（チェック✔）（本人記入）	事務局確認
専門作業療法士資格認定審査　共通申請書類			
1．専門作業療法士資格認定申請書類確認用紙		□	□
2．専門作業療法士資格認定審査(試験)申請書		□	□
3．作業療法士免許証の写し		□	□
4．認定作業療法士認定証の写し		□	□
5．日本作業療法士協会の当該年度会員証の写し		□	□
6．専門作業療法士研修　会員ポータルサイト受講記録の写し		□	□
7．都道府県士会の会員歴証明書		□	□
8．資格認定審査料の振込を証明する書類等の写し			
専門作業療法士認定審査　分野別申請書類			
1．研修実践に関する報告書		□	□
証明書類等		□	□
2．臨床実践に関する報告書		□	□
勤務証明書（非常勤勤務証明書も含む）		□	□
臨床研修での報告書		□	□
3．研究実践に関する報告書		□	□
論文、著書、抄録の写し		□	□
4．事例報告 2 事例の写し		□	□
5．教育と社会貢献に関する報告書、証明書		□	□

様式：専 OT-1-2

専門作業療法士　資格認定審査（試験）　申請書

専門作業療法士（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿分野）
氏名：　　会員番号：　　認定番号：
勤務施設名：
連絡先住所：〒 自宅・勤務先
TEL：
事務局記入欄　＊受験番号

写真貼付欄

裏面に会員番号と
氏名を記入
縦 4 ㎝×横 3 ㎝
上半身・正面・無帽
3 ヵ月以内に撮影

---------- キ リ ト リ ----------

専門作業療法士　資格認定審査（試験）　受験票

受験番号* -	専門作業療法士（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿分野）
氏名：　　会員番号：　　認定番号：	

太線の枠内のみ記入。

＜受験上の注意＞

1. この受験票は、受験時に必ず携帯し受験場ではこの票を机上に置いておくこと。
2. 集合時間までに指定された席に着くこと（試験開始 30 分以上遅刻した場合は受験できません）。
3. 試験会場内では時計が無い場合があるので、必要であれば持参すること（携帯電話不可）。
4. 試験会場では、試験監督者の指示に従うこと。

※申請書は、年度ごとに案内される申請書を用いること。

様式：専 OT-2-1

年　　月　　日

研修実践に関する報告書

会員番号：　　申請者氏名：

1．研修実践の記録

専門基礎研修	**受講年月日**
1.　専門基礎Ⅰ　機能解剖・運動学	年　月　日
2.　専門基礎Ⅱ　基礎医学	年　月　日
3.　専門基礎Ⅲ　臨床基礎	年　月　日
4.　専門基礎Ⅳ　評価	年　月　日

専門応用研修	**受講年月日**
1.　手の腱損傷	年　月　日
2.　手の拘縮	年　月　日
3.　上肢の末梢神経損傷	年　月　日
4.　上肢の機能再建	年　月　日
5.　手の骨折	年　月　日
6.　炎症性疾患の手	年　月　日
7.　上腕・肘・前腕の損傷	年　月　日
8.　先天異常・切断・熱傷の手	年　月　日
9.　物理療法Ⅰ	年　月　日
10.　物理療法Ⅱ	年　月　日
11.　ハンドスプリントⅠ	年　月　日
12.　ハンドスプリントⅡ	年　月　日

2．その他の研修実践記録

研修内容	受講年月日
1.	年　月　日
2.	年　月　日
3.	年　月　日
4.	年　月　日
5.	年　月　日

1）専門研究・開発カリキュラム

以下の受講方法①または②のいずれか該当するものに☑をつけ、必要事項を記入し、必要書類がある場合は添付してください。

□①協会が指定する専門研究・開発 e-learning を受講

受講年月日　　年　　月　　日

＊ICR-web が発行する修了証１枚を添付

□②大学院にて博士・修士を取得

学位取得年月日　　年　　月　　日

※学位記の写しと精神科急性期に関する学位論文の写しを添付

様式：専 OT-3-1

年　　月　　日

臨床実践に関する報告書

会員番号：＿＿＿＿＿＿　　申請者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．手外科分野での勤務経験年数

・常勤での経験年数：　＿＿＿＿＿＿年

・非常勤での経験年数：　＿＿＿＿＿＿年

（※証明書を添付）

合計　＿＿＿＿＿＿年　→　専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

2．手外科分野での臨床研修

臨床研修施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨床研修指導者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨床研修期間：　　年　　月　　日～　　年　　月　　日

（※臨床研修で作成した報告書を添付）

専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

3．手外科分野での経験事例数

※該当事例にチェックおよび数を記入

□　骨、関節損傷（靭帯損傷を含む）・・・・＿＿＿＿事例

□　腱損傷・・・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　末梢神経損傷・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　麻痺手の再建・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　複合組織損傷（切断を含む）・・・・・・＿＿＿＿事例

□　変形性関節症・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　関節リウマチ・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　蓄積外傷障害・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　手関節疾患・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　先天異常・・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　循環障害・・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　特殊な外傷・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　拘縮・・・・・・・・・・・・・・・・・・＿＿＿＿事例

□　炎症性疾患等、その他の疾患・・・・・・＿＿＿＿事例

合計　＿＿＿＿＿＿事例　→　専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

3．手外科分野での臨床研修

臨床研修施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨床研修指導者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

臨床研修期間：　　年　　月　　日～　　年　　月　　日

（※臨床研修で作成した報告書を添付）

専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

以上の報告に虚偽がないことを誓約いたします。　　**自筆署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印**

様式：専 OT-3-2

年　　月　　日

勤務証明書（臨床実践に関する報告書）

会員番号：　　申請者氏名：

1．在職期間

上記の者は当機関（施設）において常勤勤務として

西暦　　年　　月より西暦　　年　　月までの

計　　年　　月間

□　勤務していた

□　勤務している

（該当するほうにチェックしてください）

2．職位、所属

（配置された勤務場所の名称・特徴などを具体的に記載してください）

職位：

所属：

上記、内容を証明いたします。

機関（施設）名：

所在地：

（TEL）

所属長職名：

所属長氏名：　　印

様式：専 OT-3-3

年　　月　　日

非常勤勤務証明書（臨床実践に関する報告書）

※ 勤務形態が「非常勤」の勤務証明書に本書を例とした証明書を添付してください。

会員番号：　　申請者氏名：

１．在職期間

上記の者は当機関（施設）において非常勤勤務にて

西暦　　年　　月より西暦　　年　　月までの

計　　年　　月間

□　勤務していた

□　勤務している

（該当するほうにチェックしてください）

以下にその内容を記載する

年度（西暦）	月	勤務日数	出勤日	総時間数
総計				

年　　月　　日～　　年　　月　　日までの

総勤務時間数は　**合計　　時間**である。

機関（施設）名：

所在地：

（TEL）

所属長職名：

所属長氏名：　　印

様式：専 OT-4-1

年　　月　　日

研究実践に関する報告書：論文・著書、学会発表

会員番号：＿＿＿＿＿＿　　申請者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

論文（ISSN を取得している専門分野に関する雑誌）※写しを添付

No	著者	他　名	題名	誌名：巻：頁：年	専門単位

計：　　単位

著書（ISBN を取得している専門分野に関する書籍）※写しを添付

No	著者	他　名	書籍名	出版社	年	専門単位

計：　　単位

論文・著書→専門単位＿＿＿＿＿単位に該当

学会発表　※抄録の写しを添付

No	演者	他　名	演題名	学会名	年	専門単位

計

学会発表→専門単位＿＿＿＿＿単位に該当

研究実践（論文・著書、学会発表）計→専門単位＿＿＿＿＿単位に該当

様式：専 OT-5-1

年　　月　　日

教育と社会貢献の実践に関する報告書

会員番号：＿＿＿＿＿＿　　申請者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

教育（専門分野に関するもの）※証明書の写しを添付				
No	年月日	テーマ	内容（簡潔に記載）	**専門単位**

計：　　単位

教育→専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

社会貢献（専門分野に関するもの）※証明書の写しを添付				
No	年月日	テーマ	内容（簡潔に記載）	**専門単位**

計：　　単位

社会貢献→専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

教育と社会貢献の実践　計→専門単位＿＿＿＿＿＿単位に該当

様式：専 OT-6-1

年　　月　　日

専門作業療法士（手外科）受講資格証明書

（専門応用研修および専門研究・開発受講申込書用）

会員番号：　　申請者氏名：

専門応用研修受講資格 1~2 を下記のとおり修了しております。

研修実践

1．研修実践の記録

1）専門基礎研修	**受講年月日**
専門基礎 I	年　月　日
専門基礎Ⅲ	年　月　日
専門基礎Ⅳ	年　月　日

2．最近 5 年の手外科 10 事例の報告

洋式：専 OT-3-1 を用いて報告（記載は 1,2 まで）

様式：専 OT-7-1

年　　月　　日

専門作業療法士（手外科）資格更新審査申請書及び申請書類確認用紙

以下の書類を添えて専門作業療法士（手外科）資格更新審査を申請します。

申請者氏名：

会員番号：　　専門作業療法士認定番号：

勤務施設名：

連絡先住所：（勤務先・自宅）〒

緊急連絡先（TEL）：

※ 書類等について連絡する場合がありますので必ずご記入ください。

※ 郵送する前に、全ての書類が正しく記入されているかをご確認ください。書類に不備があった場合には、更新審査を受けることができなくなります。

書　類　名	枚数（本人記入）	確認（チェック✔）（本人記入）	事務局確認
専門作業療法士資格更新審査　共通申請書類			
1．専門作業療法士資格更新審査申請書及び申請書類確認用紙		□	□
2．専門作業療法士認定証の写し		□	□
3．日本作業療法士協会の当該年度会員証の写し		□	□
4.会員ポータルサイト基礎ポイント研修受講履歴		□	□
5．都道府県士会の会員歴証明書		□	□
6．更新審査料の振込を証明する書類等の写し		□	□
		□	□
専門作業療法士資格更新審査　分野別申請書類			
1．研究実践に関する報告書		□	□
論文、著書、抄録の写し		□	□
2．教育と社会貢献に関する報告書、証明書		□	□
		□	□